

# あゆみ通信

**VOL. 165**

あゆみの会(真宗大谷  
派大阪教区第2組同朋  
の会推進員連絡協議会)  
会長 細川 克彦  
広報 本持 喜康

## 新年のご挨拶

あゆみの会会長

細川克彦(佛足寺)



新年明けましておめでとうございます。

本年は宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年にあたり、ご

本山では慶讃法要がお勤まりになります。

ご本山の慶讃法要テーマとして、「南無阿弥陀仏一人として生まれた意味をたずねていこう」が掲げられ、大阪教区の慶讃(基本)テーマとして、ご本山のテーマに「みんなに願いがかけられている」と言う1行が加えられています。

50年に1回と言う大切な法要ですが、私たちにとってどういふご縁であるのでしょうか。

私にとって親鸞聖人は本当に宗祖になっているのだろうか。また、親鸞聖人の教えをどういただいているのだろうか。「南無阿弥陀仏」とは私にとってどういうことだろうか、あらためて尋ねていく大切なご縁になればと思えます。

コロナもなかなか終息しそうにありませんが、予防に努めつつ、聞法に勤しみたいと願っています。

本年もよろしく願い申し上げます。合掌。

**宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要**

期間

**第1期法要**

2023年3月25日(土)~4月8日(土)

**第2期法要**

2023年4月15日(土)~4月29日(土)

## 12/11総会を開催



大阪で第8波のコロナ感染拡大が危ぶまれた中の12月11日(日)午後1時30分から、天王寺区の光照寺をお借りして、あゆみの会総会が開催されました。参加者10名、委任状17名の総会になりました。

吉田雄彦副会長(法山寺)の進行で開会。真宗宗歌斉唱で始まり、細川克彦会長(佛足寺)から挨拶を、第2組組長墨林浩住職(光照寺)から来賓挨拶をいただきました。その後、議事に入り欠席の本持副会長(兼会計)に変わり、細川会長より2022年事業報告並びに会計報告、そして細川孝子監査委員(佛足寺)から報告が行われ、慎重審議の結果、全員の承認をいただきました。

引き続き2023年の事業計画と予算案が提案され、慎重審議の結果、承認されました。特に事業計画では①第1回例会を3/28の第2組慶讃法要団体参拝にあてること②第2回例会は6月開催で朋友会と合同研修会③第3回例会は第2組門徒会と合同で開催をすることとしました。

その後の意見交換では、吉田副会長より、聞法学習と共に推進員同士がもっとなごやかに意見交換できる場作りが出来ないかと提起がありました。

休憩後、墨林浩先生から「二尊教の教え」という講題でご法話をいただきました。

はじめに「身土不二」と言う仏教の教えを紹介(2面へ)

## 親鸞のことば

### 信じる心が湧き上がる

念仏もうさんとおもいたつころのおこるとき、すなわち摂取不捨の利益にあずけしめたまうなり  
「歎異抄」

「すべての人を救う」と誓われた阿弥陀さまの本願をたすけられて、必ず往生するのだと信じ、念仏しようと言う心が自分の中に起こったその時、阿弥陀さまの救いにあずかっているのです、と言う一節です。ここで大切なのは、念仏することで救いをいただくのではなく、念仏することが救いだと言うことです。念仏は手段でなく、救いなのです。浄土真宗ではこの「念仏もうさんとおもいたつころかおこる」ことを大切にします。ここには「念仏」と言う行、「おもいたつころ」と言う信心、「おこる」と言う在り方が説かれています。念仏だけだと、信心がともなわずに口先だけの場合がありますが、そうではなく念仏と信心がワンセットなのです。また、信心は「おこす」ではなく、「おこる」のです。自力ではなく、阿弥陀さまのたまらきによる信心、これを真実の信心とか、他力の信心と言います。このように信心も念仏も阿弥陀さまからの贈り物なのです。

親鸞の教えに学んでいく中で、信心や念仏に迷ったときは、「念仏もうさんとおもいたつころ」に立ちかえってみるとよいと思えます。(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

### 改めて、最初の一步から

あけましておめでとうございます。

今年は、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年と言う年、本山では盛大に慶讃法要が勤められます。

年の初めの言葉は「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」です。

ある先生が「真宗信心が目指すのは、非戦平和、生命尊重、平等社会である」と言われます。

年の初めにあたり、あらためてこの言葉を肝に銘じて、生き抜こうではありませんか。(本)

「大推協ニュース」原稿募集

「あゆみの会」が参加している大推協(会長細川克彦)では機関誌「大推協ニュース」を発行していますが、次号(2023年4月発行予定)の原稿を以下の通り募集しています。日ごろの聞法生活で考えておられることや出来事を書いて見られませんか。

記

テーマ 自由

字数 800字程度

応募締切 2023年1月31日

送り先 〒543-0053 大阪市天王寺区北河堀町2-22 細川克彦又はメールで

hosokawa5349@outlook.jp

Fax 06-6779-5349

い。だから学者になるのは無理だし、なりたいとかは思っていない。

ただ、嬉しかったなあと言って死にたいんです。死ぬ時に自分の人生に手を合わせて、有り難かった。本当に嬉しい人生やったと言って、死ぬるようなものになりたくて仏法を聞いているんです。

仏法を聞いていると言うことが、この身体で生きていくようなものにならなくては、それは仏教ではないと思うてるんや。勉強して分かる、そんなんはどうでもいい。ところが、仏法を聞けば聞くほど、体で生きていくということに、なかなかならない。仏法を聞いて、頭では分かるけど、身体がそう言うふうにならん。昔からそうだった。蓮如上人の頃も、そうやった。こうやって説法を聞いているときには、仏さまの智慧がありがたい、ナンマンダブツと思うんやけど、ここをずっと出て行ったら嫁さんの顔が頭に出て来てカーッとくる。

私はザルみたいなもんやと。仏法を聞いとるときにはいいんやけど、ザルから水が漏るようなもんで、なんぼ聞いても漏ってしまう。「蓮如上人、どないしたらいいんでしょうか」と聞いたら「ザルを水の中につけよ」(つづく)

紙上法話 大無量寿経の仏道⑫ 延塚知道先生

「その時に次に仏ましましき。世自在王、如来・



応供・等正覚」(真宗聖典10頁)ここは、国王が世自在王如来と出会うところから始まる。お釈迦さまと阿難の出会いの意味を、如来と法蔵菩薩との出会いから始まると。だからお釈迦さまと阿難の出会った意味は、あなたが法蔵菩薩であり私が如来として、出会ったんですよと言っていることになります。

次に「時に国王ましましき、仏の説法を聞いて心に悦びを抱き、尋ち無上正真道の意を発しき」と。

国王が無上正真道の心を起こした。「国を棄て、王を捨てて、行じて沙門と作り、号して法蔵といいき」国王は王の位を捨てて、法蔵菩薩と言う沙門になったと。やはり出会いから始まる訳です。いい名前ですね。世自在王。

仏さまと言うのは、自体満足しているということと同時に、世の中で自在なる王さま、自由な王さま。仏さま言うのはきっとそうなんです。自由なんや。自由と言っても、勝手なことをする自由とは違う。それは外道と言う。僕は慢性欲求不満症だからいつでも腹立てて生きているけれど、どんなことがあってもニコッと笑っていられるような。

高史明先生が、そうです。酒席で一緒にしたときに「のぶさん、ガンになってしもた」、ほほえみながら言うておられる。「もう死ぬ準備せなあかん」と言われて、少しも悲壮な感じを受けない。何か自由な人なんです。

「うれしかった」と言って死む。ぼくは大学で勉強させてもらってますけど、頭はよくな

(1面から)され、土とは環境を表わし、身と土は実は深く



つながっている。場(土)とは心の置き場所を表わし、人は心が落ち着く居場所を求めている。そして、それを真宗では浄土と表わす。また、真宗は二尊教であると教えられているが、教主は釈尊(人間)であり、救主は阿弥陀如来(擬人化して表現されているが、法、道理法則)である。

世間では一体化して、教祖が救主となっている宗教も多いが、これは人に依存しており、釈尊は「法に依りて、人に依らざれ」と教えてくださっている。

また、阿弥陀さまが私を助けるのではなく、私を助けるはたらきを阿弥陀と言ひ、浄土とは存在を存在たらしめる働きであると。

また、ここにいる自分がどれだけのご縁を得て来たかと言うことに気付くことが大切であると。資料も配って下さり、分かりやすく話していただきました。最後にみんなで恩徳讃を唱和し閉会しました。

(レポート:細川克彦<佛足寺>) 第38回第2組同朋大会

第2組の2023年の仏事は、同朋大会からスタートです。

今年は釈徹宗先生(相愛大学学長)をお迎えして開催します。ご期待ください。

日時 3月11日(土) 13:30  
会場 南御堂同朋会館講堂  
内容 お勤めと法話  
講師 釈徹宗先生

(相愛大学学長、浄土真宗本願寺派如来寺)

参加費 1000円

(記念品有)

詳細は別途案内があります

